

令和6年度 第2回 南城市地域公共交通会議資料

モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習） 支援事業の採択

令和6年8月30日

南城市地域公共交通会議

1 モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)支援事業の概要

- 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、小中高等学校におけるモビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）の普及を図るため、教員支援、自治体支援を行っています。
- 支援期間は原則３年間で、委員会運営費、モビリティ・マネジメント教育実施費用が資金面（上限 250 万円）での支援内容となっています。

表 1.モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）支援事業の概要

項目	内容	
事業の目的	小中学生・高校生を対象にしたモビリティ・マネジメント教育に取り組む地方公共団体に対して、ノウハウの提供や資金面での支援を行い、継続的に実施するための拠点づくりを目的として実施する。	
支援内容	①実施面での支援	情報提供、及び情報収集の支援
	②資金面での支援	支援対象経費 ・委員会運営費 （委員及び講師への謝金、旅費交通費、会場費等） ・モビリティ・マネジメント教育実施費用 （業務委託費、印刷製本費、資料等の購入費用等）
		1 プロジェクトにつき、1 年あたり 250 万円程度
	③支援期間	原則 3 年間
申請資格	本事業の応募資格者は、都道府県又は市区町村とする。2 度目の申請を行う場合は、前回の支援終了後から 5 年以上経っていることが必須となる。	
選定方法	受理した申請書は、「モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）普及検討委員会」において審査を行い選定する。なお、必要に応じてヒアリングなどにより申請内容の確認を行う。	
実施期間中の確認	エコモ財団は支援団体が開催する委員会に事務局として参加するとともに、授業を見学する。また、複数年に渡る事業であっても、年度ごとに支援申請をし、実施計画等の確認を行う。	

2 南城市における事業概要

- 今回、南城市では「市内線バス「Nバス」を活用した交通環境学習」事業が採択されました。
- 1年目は、佐敷小学校においてNバスを活用した教育プログラムの検討・実施、2年目は取組のブラッシュアップ、3年目は市内全小学校への展開を予定しています。

表 2. 市内線バス「Nバス」を活用した交通環境学習事業の概要

項目	内容
事業の目的	本市では、公共交通の見直しを進める中でNバスの運行が始まったが、地域間で利用に差が見られる状況である。その状況を踏まえ、子ども達を対象にNバスを活用したモビリティ・マネジメント教育を推進し、公共交通の理解を深めることを目指す。
実施体制	名桜大学の寺本潔氏やバスマップ沖縄の谷田貝哲氏を中心に、市民団体、対象小学校の校長、教員、市教育委員会、関連部署などで構成される実行委員会が事業を進める予定である。
実施概要	1年目は佐敷小学校をモデル校に地域資源であるNバスを活用した教育プログラムを検討・実施し、学習ツールの作成も行う。2年目はその取り組みをブラッシュアップし、3年目には市内全小学校に展開する。 取り組みの成果として動画などを作成し、Nバス車内や学校・市のHPで情報発信を行い、利用促進と自己肯定感の向上を図る。

表 3. 市内線バス「Nバス」を活用した交通環境学習事業のスケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
4月			
5月		実施計画の検討	実施計画の検討
6月		①第1回委員会 ▲ 授業実施・副読本(別冊)検討	①第1回委員会 ▲ 授業実施
7月	▲ 実施計画の検討 関係者調整		▲ 副読本(別冊)策定
8月	▼ ①第1回委員会		
9月	▲ 授業実施 ▲ ツール検討・作成	②第2回委員会	②第2回委員会 ▲ 全小学校実施
10月			
11月	②第2回委員会 ▲ 視察		
12月	▼ ▼		
1月			
2月	▼ ③第3回委員会	▼ ③第3回委員会	▼ ▼ ▼ ③第3回委員会
3月	完了報告書提出	完了報告書提出	完了報告書提出

＝ 参考 令和５年度の佐敷小学校における取組 ＝

項目	内容
学習名称	南城市のNバスを利用した歴史史跡巡り（ふるさと学習）
学習のねらい	・南城市内を走るNバスを利用して、「市内歴史史跡巡り」を児童目線で創る過程の中で、自分たちの住む地域や南城市の良さについて再認識する。 ・地域の歴史等に目を向け、体験をしながら課題を発見し、小学生なりの方法で諸課題の解決のために積極的に関わり調査し実践力を養う。 ・自分たちの創ったNバスの利用が、これからの南城市の観光やまちづくりに貢献でき社会に働きかける機会となり、より自分事としてかかわる力を育てる。
実施内容	・総合的な学習の時間を柱に、各教科を横断的な学習として取り組んだ。平和学習を入り口として、南城市内の平和史跡や、身近な平和に関連する史跡等の調査をした。 ・東京成徳大学の寺本先生を招聘し、エコを視点としてNバスの利用と自家用車を考え、比較検討しながら交通環境のあり方を自分なりに考えること目的にした授業をしていた。また、職員向けにも「授業の取り組みの説明」と「交通モビリティの考え」等の講話をしていただいた。 ・調べ学習や見学、聞き取り調査を通じて、市内に点在する平和史跡や市のよさを発信できる場所等を、Nバスを利用して巡るルートを自分たちで考え、Nバスの利用やその良さを提案した。 ・聞き取り調査の結果を踏まえ、外国の方々向けに南城市及びNバスのアピール用ポスターを英語で制作した。観光協会やNバスのセンターの協力を得て、市の道の駅「がんじゅう駅」でポスター掲示等を一か月間掲示し、情報発信をした。 ・ある学級では、Nバスで聞き取り調査をしている中で海岸の汚れに関心が向かった。海岸清掃を経てゴミや拾った物を利用してアート作品を制作した。作品はチャリティー販売され、収益金は能登半島地震復興のために寄付された。



▲寺本先生の授業の様子



▲Nバスの良さや提案の様子



▲聞き取り調査の様子



◀チャリティー販売の様子